

■ 「第45回東京モーターショー2017」が今年10月27日（金）から11月5日（日）までの10日間、東京ビッグサイト（江東区・有明）にて開催される。前回の会期総入場者数81万2500人だったが、今回は前回を上回ることができるか注目される。

今年のモーターショーは「世界を、ここから動かそう。BEYOND THE MOTOR」をテーマに、様々なアイデアや最新テクノロジーをクルマとともに紹介。国内メーカー14社15ブランド、海外メーカー13社19ブランドが出展する。

■ 乗用車ではボルボ・カー、二輪車ではハーレーダビッドソンが復帰するほか、スウェーデンの商用車メーカー、スカニアが初出展する。また、会場である東京ビッグサイトは、東7/8ホールが増設されたことにより、前回を超える展示面積規模での開催となる。

■ 新たなシンボルイベントとして、主催者テーマ展示「TOKYO CONNECTED LAB 2017」を開催。約300人が一度に体験できる大きなドーム型映像空間（360度映像）で未来のモビリティ社会を俯瞰体験できる「インタラクティブ展示」、約30人が同じバーチャル空間で試乗体験できる「VR展示」、様々な業界のリーダーが将来のモビリティについて語る「トークイベント」など、将来のモビリティ社会がもたらす新しい価値や社会とのつながりを解りやすく体験できる参加型プログラムを用意するという（日本自動車工業会）。

■ 各メーカーの新車展示ではPHV、EV、FCVの次世代車、そして自動運転車、安全運転装置付車の技術革新競争が見られそうだ。特に、最近世界で脚光を浴びているEV車の進化状況が注目だ。

■ 北海道では、寒冷地仕様のEV車が一般販売に向けて改良が進んでいるという。EVはモーターを動かす蓄電池が寒さに弱いなど寒冷地に向かないとされてきた。弱点を克服しようと、道内の機械加工や住宅建設など異業種で作る共同チームがつくられ、2014年に開発に着手。トヨタ車体の小型EV「コムス」を基に寒冷地ならではの技術を開発。昨年1月の札幌モーターショーでは試作車を一般公開していた。

■ 来年1月下旬に札幌で「札幌モーターショー」が開催されるが、北海道産EV「コムス」が出品されることを期待したい。そして、どこまで改良・進化したか、一般発売となるか、またその価格は、量産化は、など興味津々である。（T・S）